

3月12日(土)、本校協創ホールで中学校の卒業式が行われました。高校同様、男女共学の一期生として51名の生徒が卒業しましたが、中高6か年一貫生として記念すべき初めての卒業式でもありました。

答辞を述べた小林さんは「この2年間、新型コロナウイルスの影響で楽しみにしていた研修旅行の延期・中止をはじめ、思ったような中学校生活を送れなかったのは残念でした。しかし、友達と過ごしたさまざまな場面は一生の宝です」と述べていました。

43名が一貫生としてそのまま協創高校に進学します。8名の生徒は他校に進学します。中学校生活で成しえなかったことなどを高校に進んでからのエネルギーに変え、悔いのない高校生活を送って欲しいと心から願っています。



“コミュニケーション”の基本とは？

3月19日(土)、3学期終業式で次のようなことを全校生徒に向けて話しました。「この1年間、毎朝校門付近に立って、みなさんと挨拶を交わすことができました。私は『よしよし、いつも通り登校してきたねえ。その調子だよ、今日も頑張ろうねえ』という想いで声を掛けていますが、みなさんからの挨拶も日増しに気持ちのいい挨拶になっていくのを感じています。もちろん校内での挨拶もそうです。先日のことですが、本校に来られたお客様から『生徒のみなさんの挨拶は素晴らしいですね』とお褒めの言葉をいただきました。社交辞令ではなく、と前置きしての言葉でした。とても嬉しいことですね。今年度は多くのお客様にお褒めの言葉をいただくことが多かったです。挨拶は自分たちにとって意味のあることです。素敵な習慣は是非とも続けていきましょう」と。

さて、前後して3月16日(水)、第10回教員研修会が行われました。内容は「コミュニケーションについて」でした。これまでの教員生活を振り返ると、こうした内容の研修は数えるほどだったということもあり、始まる前はいささか心配がなかった訳でもありませんでした。が、終わってみると気持ちが充実した納得の90分間となりました。講師の方の話術や展開の巧みさもあったことに加え、もやもやしていたことが肚に落ちたということなのでしょう。大袈裟に言えば、爽快な気持ちになれた研修でもありました。

研修冒頭、「信頼できない人に、積極的に話したいと思いませんか？」ということ突き付けられました。いきなり確信に触れられたような意外なスタートに驚きを隠せませんでした。徐々にその衝撃が消されていきました。具体例が示されてい

きました。いつも機嫌が悪い人、しかめっ面をしている人、否定ばかりする人、口が軽い人…には話しかけたいと思いませんよね、と。納得です。他者から見て、自分はそうになっていないだろうかと思わずわが身を振り返ってみました。

“信頼している人、話を聴いてくれる人には話したいと思う。信頼している人の言葉は素直に受け取ることができる”ということが根本にあってコミュニケーションが成り立っていくということが見えてきます。そして、その“信頼関係”を築いていくことが、まずは大切であることを伝えられました。人間関係の構築に大事なことは3つ。1つは、「挨拶、マナー、感謝」という基本が崩れると破綻が生じはじめる。当たり前のことを徹底すること。2つ目は、聴く態度、傾聴のスキルはすべての人に必要なスキルである。3つ目は、相手の価値を知り、自分と相手の違いを把握し、相手を深く理解すること。といったこれらの日常の小さなコミュニケーションの積み重ねが意味あることだと学びました。だからこそ、「何気ない対応、何気ない一言、何気ない返答」が将来のコミュニケーションと人間関係構築に影響を及ぼすということも。

集団や組織にとって円滑なコミュニケーションは重要です。その基本は、信頼関係に満ちた人間関係が基本なのだとすることを改めて確認できた研修でした。終業式で「挨拶は自分たちにとって意味あること」と生徒に話したのは、このことにも繋がっていました。対面時、挨拶を先にすることを心がけ、挨拶をされたら必ず返すこと。人間関係を作る上では当たり前なこと、コミュニケーションの一步なのです。